

令和3年度スポーツ庁委託事業 Specialプロジェクト2020
 (特別支援学校を対象とした全国的なスポーツ・文化大会開催事業)
「2021全国ダウン症アスリート陸上競技記録会」成果報告書

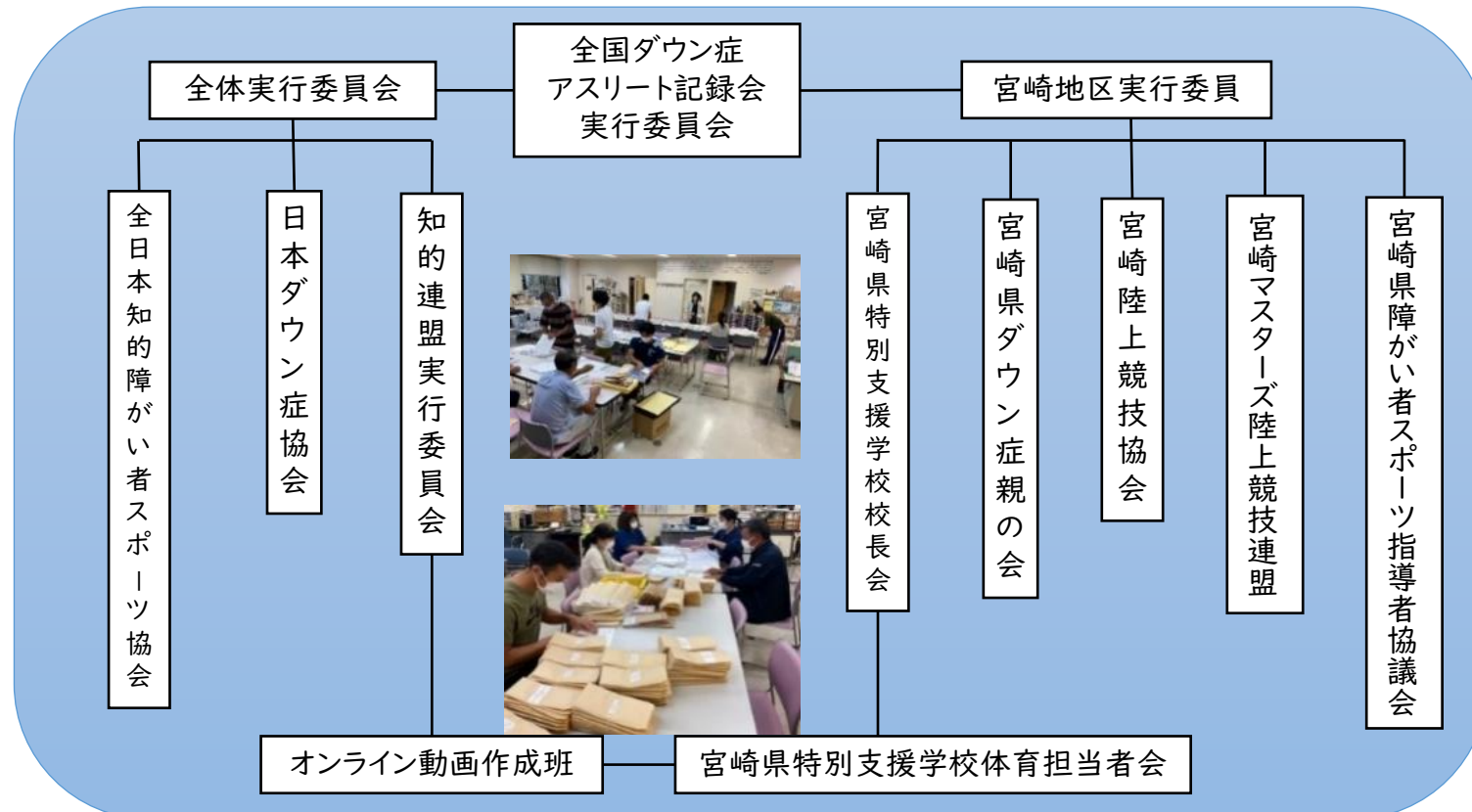


2022年3月
 非営利活動法人日本知的障がい者陸上競技連盟

1 事業目的

本事業は、国内のダウン症競技者を対象とした初の陸上記録会として、多くの障がい者（ダウン症）がスポーツを楽しめる環境のきっかけづくりとなり、障がい者スポーツへの理解と関心を高めるとともに陸上競技の幅広い普及を図ることで参加者の裾野を広げていきたいと考えた。また、全国の特別支援学校の活動のきっかけや地域、クラブで継続したダウン症アスリートの発掘、育成を図っていくことを目的として開催した。

2 事業体制



3 実施方法・参加校

<公式の部>

10月24日延べ人数男子21名女子9名
宮崎県ひなた総合運動公園 ひなた陸上競技場

<チャレンジの部>

10月24日延べ人数男子16名女子3名
宮崎県ひなた総合運動公園 ひなた陸上競技場

オンラインの部

参加校11校 1クラブ 96名

フォトコンテストの部

11人

4 事業の取り組み

①大会前日の陸上教室



- ・大会当日の流れの確認（支援者含む）
- ・本番を想定した練習（短距離・跳躍・投擲に3ブロック別での練習）

②大会当日の様子



③フォトコンテスト



- ・応募者の中から10名の方を当選とし、写真入りのフォトフレームを贈呈した。

④オンライン記録会

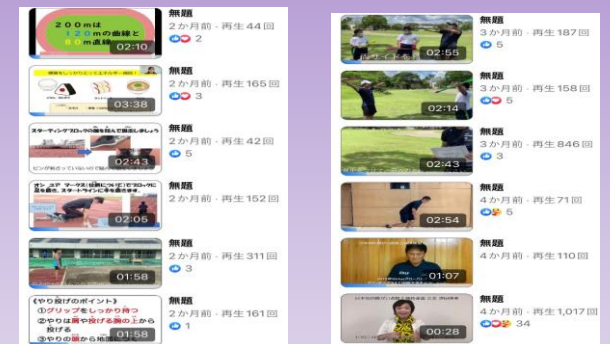
- ・オンラインの部に延べ人数96名の申し込みがあった。認定書を送った。



| ID日本記録（ダウン症の部）一覧 | | | | | 2021/12/6 |
|------------------|---------|------|--------|----------------|------------|
| 男子 | | 風力 | 名前 | 所属 | 年月日 |
| 100m | 15"69 | +1.3 | 菅原 誠士郎 | 宮崎県立みやざき中央支援学校 | 2021.10.24 |
| 200m | 35"53 | +1.7 | 相田 周一郎 | 宮崎・個人 | 2021.10.24 |
| 400m | 1'36"33 | | 三門 和生 | 宮崎・みなみのかげ支援学校 | 2021.10.24 |
| 走幅跳 | 2m80cm | +1.5 | 菅原 誠士郎 | 宮崎県立みやざき中央支援学校 | 2021.10.24 |
| やり投 | 14m45cm | | 野脇 颯真 | 宮崎・みなみのかげ支援学校 | 2021.10.24 |
| 女子 | | 風力 | 名前 | 所属 | 年月日 |
| 100m | 17"10 | +0.9 | 山本 汐音 | 阪・堺ファイン | 2021.10.24 |
| 走幅跳 | 2m75cm | +1.5 | 山本 汐音 | 阪・堺ファイン | 2021.10.24 |
| やり投 | 6m72cm | | 深田 奈菜美 | 宮崎・みなみのかげ支援学校 | 2021.10.24 |

- ・9都道府県の延べ30人の選手が出場し、お互いに競い合い、笑顔いっぱい一生懸命競技に取り組むことができた。
- ・8つの種目で日本記録と認定した。

⑤SNS活動



- ・初めて陸上競技をする選手もいるため、競技特性や練習方法など分かるように合計12本動画をFacebookでアップした。

5 成果と課題について①

以下の方法でアンケートを実施した。

- ①参加者を対象に実施(大会当日、参加者の同伴者にアンケートを実施)
- ②全国の特別支援学校の体育主任を対象にアンケートを実施。(全国の約500校の内、192校から回答があった。)
- ③大会実行委員を対象にアンケートを実施。
- ④審判、補助員を対象にアンケートを実施。



保護者・支援者の声

- ・支えてくださる方がたくさんいることが分かって心温まりました。応援していても選手に笑顔いっぱいになりました。ありがとうございました。
- ・参加できる機会、交流できる機会を与えていただき感謝。選手のみならず保護者の励みにもなった。周りから多くの激励をもらいとても良かった。
- ・初めて陸上競技だったので不安もありましたが走り終えて良かったです。ダウン症児を持つ保護者とも色々話ができ、いい交流になりました。

審判、補助員の声

- ・みんな頑張っていて良かった。選手が頑張っているのを見て自分も頑張ろうと思った。同じ陸上をする選手として心が熱くなった。周りに刺激をもらい応援する側も元気がもえた。学ぶことがたくさんあった。選手の頑張る姿に感動しました。全員いきいきして元気が出た。
- ・今後も続けてほしい。初めてで緊張したが、学校で教えてもらったことを生かして良かった。笑顔で楽しそうに走ったり、真剣に負けたくないという顔で走っていて自分自身も頑張ろうと思った。上位大会につながる仕組みがあれば実施して良いのでは。

全国の特別支援学校の声

- ・ダウン症のある児童生徒は、体調面、様々な合併症を併せ持っていることが多く、活動が制限されることも多いが、一人一人は楽しんで活動できる場であるなら、積極的に参加できるような呼びかけをしてほしい。
- ・学校代表としての参加は、日頃の練習、練習場所、移動手段、指導者など様々な課題があります。現段階での大会参加は判断が難しいと思います。
- ・生涯にわたって健康に生活するためにスポーツは大きな意味をもつ。一人一人の体の状況に合わせ、活動できる場が増えると良いと思う。

大会実行委員の声

- ・診断書はかなり問い合わせがあった。知的連盟の診断書は、内科、整形外科両方の診断書が必要で二部提出されている選手もいた。今後の改善点として、小学、中学、高校までの児童生徒は、「学校生活管理指導表(小学生用中学・高校生用)」医師が作成。を提出でも良いのではないかと再検討する。
- ・今後、参加者が増え、ダウン症選手のチャンスが広がる可能性があると感じた。大会開催の情報発信をもっと積極的に行ってもよいかと思う。
- ・大会を継続して行えるように予算の確保し、選手の登録制などできると良い。

5 成果と課題について②

成果

- 国内初のダウン症競技者を対象とした陸上記録会として障がい種を分けてスポーツを楽しめる環境の提供。
- 障がい者のスポーツ促進・実施は、周囲に勇気や感動を与え、関わった人々にも良い刺激を与えた。
- 大会を複数の団体（日本ダウン症協会・マスターズ陸上競技連盟・陸上競技協会・特別支援学校校長会・指導者協議会等）の連携で、関係者の輪が広がり、障害者及び障害者スポーツの理解と関心を高めるとともに陸上競技の幅広い普及をすることができた。

課題

- 大会申込、登録、診断書の提出など手続き方法や書式の見直し。
- 委託事業等と顕在的基盤がなければ、大会運営が困難な状況だが、継続的に実施すること。
- 新たな大会創設ではなく、地域の既存の大会に協働参加することで、地域密着型の大会を増やし、全国や世界を目指し、普及から進めていく。



6 今後の取り組みについて

- ・日本陸上競技連盟関係団体や全国の特別支援学校、その他関係諸機関との連携を深め、大会の継続開催。
- ・SNSやHPを利用し、国内外大会情報などの提供や陸上競技教室の企画運営、練習方法の紹介。
- ・競技人口の増加や障がい者スポーツの幅広い普及。